

第 1 回 行財政改革懇談会 会議録

- 1.開催日時 平成 22 年 8 月 30 日（月）午後 3 時 30 分～午後 5 時 30 分
- 2.開催場所 豊橋市役所政策会議室（東館 4 階）
- 3.出席者 委員 9 名（石原委員、伊藤委員、大久保委員、木村委員、
佐藤元彦委員、白井委員、鈴木委員、諏訪委員、世羅委員）
豊橋市 12 名（佐原市長、堀内副市長、宇野総務部長、金田財務部長
浅野企画部長、鈴木行政課長、石黒人事課長、渡辺財
政課長、広田政策企画課長、神藤行政課主幹、吉原人
事課主幹、鈴木財政課長補佐）
- 4.欠席者 佐藤庄一委員
- 5.傍聴者 1 名
- 6.会議概要 以下のとおり

発言者	要 旨
事務局 （行政課長）	<p>ただ今から、豊橋市行財政改革懇談会を開催します。</p> <p>会長が決まるまで本日の進行は、私、豊橋市役所行政課長の鈴木が務めさせていただきます。</p> <p>本懇談会は、広く市民の意見を求めるという性質にかんがみ、「附属機関等の設置及び運営の基準に関する要綱、第 9 条第 3 号」の規定により、原則として公開し、会議は傍聴を可能とした上で、議事録を取り、ホームページや市役所東館 1 階のじょうほうひろばで公開したいと考えておりますので、ご了承ください。</p> <p>委員のみなさまにおかれましては、大変お忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、次第に沿いまして、まず<u>次第の 1、委嘱状の交付</u>でございますが、本来ですと市長より皆様お一人お一人にお渡しするのが本意ではございますが、時間の都合もありまして、略式で失礼とは存じますが、あらかじめ皆様方のお手元に配付させていただいております。各々ご確認くださいませようお願いいたします。</p> <p>なお、本日は、委員の佐藤庄一さんが所用のため出席されておられませんので、あらかじめご承知おきください。</p> <p>それでは、はじめに市長より一言ご挨拶申し上げます。</p>
佐原市長	<p>皆さん、こんにちは。このたびは、本市の「新たな行財政改革プラン」の策定にあたりまして、「行財政改革懇談会」の委員就任を快く受けていただき、厚く感謝申し上げます。</p>

発言者	要 旨
佐原市長	<p>また、本日のように暑い日や今後、寒い日に懇談会が開催されることもあろうかと思われましますし、皆様お忙しいお立場であるとは存じますが、それぞれのご経験を基に、市民の視点で、また、大所高所からさまざまなご意見、ご指導をお願いいたします。</p> <p>特に、公募委員の木村様と白井様のお二人には、応募いただいた 8 人の中から、今回、抽選によりご就任をお願いいたしました。応募の際には、豊橋の将来に対する思いやご自身の経験を本市の行財政改革に生かしたいといった応募動機をいただいております。懇談会の中で、忌憚のないご意見を十分いただくようよろしくお願いいたします。</p> <p>また、本懇談会のために、地元大学から愛知大学の佐藤学長様にご就任をお願いするとともに、経済界や女性団体など各種の団体代表者の方にもお願い申し上げ、大変お世話になります。よろしくお願いいたします。</p> <p>さらに、今回のプランの策定にあたりまして、行政内部の検討のみで進めるのではなく、外部の有識者や専門家の視点からご指導・ご助言をいただきながらオープンな形で策定を進めるため、関西学院大学の石原教授をはじめとして 4 名の方に専門委員として、本懇談会にもご出席をお願いするなど、誠に充実したすばらしい委員構成となり、大変心強く思っております。</p> <p>さて、市民税をはじめとした税収の落ち込みが激しい中、行政需要は益々多岐に渡ってきており、生活保護、こども手当や高齢者医療にかかる費用など、市の財政に対する負担はますます大きくなってきています。そのような状況の中、本市では、平成 22 年度までを目標に、経営改革プランに基づき、集中的に行財政改革を進めているところですが、平成 23 年度を初年度とする第 5 次総合計画による地域づくりの推進のためには、健全な行財政基盤の確立が喫緊の課題でございます。</p> <p>しかし、こうした厳しい時代だからこそ、市民とともに力をあわせ、まちづくりを進めていきたいと思っております。「第 5 次総合計画」の中でも、「協働」や「連携」をキーワードとしており、基本理念の中に、「ともに生き、ともにつくる」という言葉もあり、みんなで考え、みんなで行動し、地域のことは地域で考え、行動する仕組みづくりをいろいろと考えてまいりたいと思っております。そのためにも、費用対効果を考え、職員が給料に見合った仕事をし、</p>

発言者	要 旨
佐原市長	<p>市民の皆様のお役にたてる仕事をし、市民の模範となることが大切だと思っております。</p> <p>また、行革を進めるうえでは、職員の意欲、意識をいかに高めていくかが重要です。この後、職員から豊橋の行財政の現状説明がありますが、これまでも不断の行革の取組みにより、財政運営の健全性の維持とサービスの充実を図ってまいりました。しかし、行革と申しますと、得てしてサービスカットや経費削減ばかりに意識が向きますが、もう一方で市民の生活を守り、安全なまちにしていく、また、将来にわたり緑豊かなまちにしていくという大切なことが難しくなっています。</p> <p>今後は、そこから生み出すことのできる新たな価値を創造する必要があります。</p> <p>こうしたことから、今回の行革プランにあたっては、行政内部のチェックや検討だけでなく、市民の方々が感じている思いや、外部の有識者、専門家の視点から検証をいただきながら、できるだけ市民の方にもオープンな形で策定を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>最後に、今回の「行財政改革プラン」が、市民のため、そして豊橋市の将来のため、職員も一丸となって改革の姿が目に見える形で取り組んでいくという意気込みでございますので、何卒、委員の皆様にもいろいろな角度からご助言いただきますようお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。</p>
木村委員	<p>市長の挨拶の中で、行財政改革プラン策定に対する協力をお願いがございましたが、市長として、行財政改革の中で一番強調したいものは何でしょうか。</p>
佐原市長	<p>今回の改革の中で、豊橋市の生産力を高めたいと思っています。</p> <p>切るばかりの改革では、将来の子どもたちがこの地で働いてくれない。切るばかりでなく、豊橋市がやること、市民自らがやることを整理する必要があります。</p> <p>財政負担では、税金というかたちで市民みんなが負担するものと、利用者が負担する応分の負担をきっちり分ける必要があると思っています。例えば、校庭の夜間照明についてですが、設置・整備するのは市の役割だが、電気代などのランニングコストは、利用者に負担していただくなど、論理的に線引きをし、市はきちんと説明でき、公平性・公明性から市民に理解されるものでなければならないと考</p>

発言者	要 旨
佐原市長	<p>えています。</p> <p>あと、行政は効率化を進めなければならない。</p> <p>しかし、何が無駄であるかを一概に決めることは難しく、効率化のために何かを省くのであれば、きちんと市民に説明できるように努めていきたいと思ひます。</p>
事務局 (行政課長)	<p>次に、本日は初めての懇談会でございますので、<u>次第の3</u>といたしまして委員の皆様のご紹介と市の職員を紹介させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>大変恐縮ではございますが、各委員におかれましては、自己紹介という格好でお願ひします。</p> <p>本日、配席図、それから出席者名簿等がございます。こちらをご参考にしていただけたらと思ひます。名簿につきましては、五十音順になっておりますので、大変恐縮ですが、石原委員のほうから順番にお願ひいたします。</p> <p>《委員自己紹介》(別添名簿順)</p> <p>続きまして、市側の職員を紹介させていただきます。</p> <p>《職員紹介》</p> <p>なお、大変申し訳ございませんが、市長・副市長は所用のため本日は、これにて退席させていただきます。</p> <p>次に、<u>次第の4</u>でございます。本日は第1回目の懇談会ですので、まずは事務局より<u>行財政改革懇談会設置要綱</u>について説明します。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>《豊橋市行財政改革懇談会設置要綱の説明》</p>
事務局 (行政課長)	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問はございますか。</p> <p>《質問なし》</p> <p>ないようでしたら、本日の<u>議事の(2)懇談会の会長の選任</u>を行いたいと思ひますが、先ほど説明させていただきました設置要綱の第3条第1項にありますとおり、会長は委員の互選により選出することとなっておりますので、どなたかご発言をお願ひします。</p>

発言者	要 旨
伊藤委員	<p>地元の愛知大学の学長をして見えます佐藤元彦さんが最も適任だと思いますので、推薦します。</p>
事務局 (行政課長)	<p>伊藤委員から佐藤元彦委員を推薦というご発言がありました、いかがでしょうか。</p> <p>《異議なし》 ご異議がないようですので、会長は佐藤元彦委員に決定します。それでは大変恐縮ですが佐藤委員、会長席へ移動をお願いします。</p> <p>《佐藤元彦委員、会長の席へ移動》</p> <p>早速ではございますが、会長就任のご挨拶をいただきたいと思えます。よろしくをお願いします。</p>
佐藤会長	<p>本地域は、行政と外郭が非常にうまくいっている地域であると感じています。私が学長を務める愛知大学も豊橋市には大変お世話になっており、基本的に豊橋市からの要請には応えたいと思っています。会長として、各委員のお力をお借りしながら、本懇談会を有意義なものにしたいと考えていますので、お力添えのほどよろしくお願いします。</p>
事務局 (行政課長)	<p>ありがとうございました。 ここからの進行は、会長の佐藤委員をお願いします。</p>
佐藤会長	<p>それでは、まず、<u>議事の(3)副会長の指名</u>を行います。 設置要綱第3条第1項にありますように、副会長は会長の指名によることとなっておりますので、私から副会長として、行政改革推進本部専門委員会委員長を務めてみえます、石原俊彦委員を指名させていただきますと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>《異議なし》 それでは、石原委員、副会長席への移動をお願いします。</p> <p>《石原委員、副会長の席へ移動》 続いては、<u>議事の(4)これまでの行財政改革の取組みの概要説明</u>をお願いします。</p>

発言者	要 旨
資料 1 (行政課主幹) 資料 2 (財政課長) 資料 3 (人事課主幹)	<p>それでは、お配りしましたお手元の資料とパワーポイントを使いましてご説明させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊橋市経営改革プランの取組みと現状 (資料 1) ・ 豊橋市の財政状況 (資料 2) ・ 豊橋市の定員・給与状況 (資料 3)
佐藤会長	<p>次に、<u>議事の (5) 意見交換</u>です。</p> <p>ただいま、事務局から説明がありましたが、本日は第 1 回目の開催ですので、ここからは皆様との自由な意見交換会としたいと思います。</p> <p>今回は、事務局より豊橋市の現状を報告していただきましたが、次回は今後作成予定の新たなプランについての中間報告を伺い、それについて議論したいと思いますので、今後のスケジュールを事務局から報告してください。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>新たな改革プランは、今年度中に作成し平成 23 年度から推進したいと思っています。本懇談会は今回を含めて 3 回開催を予定しており、今回は現状を報告させていただきました。</p> <p>次回 2 回目は、新たなプランの考え方を説明させていただき、ご意見を頂戴したいと考えています。</p> <p>最後の 3 回目は、2 回目で頂戴したご意見やパブリックコメントによる市民意見を反映させた新たなプランとして報告させていただきたいと思います。</p>
佐藤会長	<p>では、そのスケジュールで進めていきたいとおもいますが、今回は、意見交換会ということで、さきほどの事務局からの説明に対する質問でも結構ですし、豊橋の今後の行財政改革に対するみなさんのご意見でも結構ですので、自由に意見交換してもらいたいと思います。どなたかご意見はございますでしょうか。</p>
木村委員	<p>改革と改善の言葉の違いについて教えてください。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>日々の業務の見直しや、行政評価による個々の事業見直しなどは改善という言葉を使っています。行財政改革では、マネジメントの見直しや組織の横断的な仕組みの再構築に取り組むという、少し大きな意味で改革という言葉を使っています。</p>
木村委員	<p>今回の新たなプランは、具体的に市役所の中ではどのクラスの方がプランの素案を作成するのでしょうか。部長クラスか課長クラスかあるいは、主査クラスが案を出すのかお伺いしたい。</p>

発言者	要 旨
事務局 (行政課主幹)	<p>最終的には、市長をトップとした各部局長で構成される行政改革推進本部で決定します。</p> <p>素案の策定は、今の時代に沿って透明性を高める意味からも、外部の専門委員からアドバイスいただき、さらにパブリックコメントというかたちで市民意見も取り入れて作成したいと考えています。</p>
木村委員	<p>現行のプランについて伺いますが、平成 17 年度から 22 年度までの現行プランですが、毎年見直しをしているのですか。毎年プランの実績評価をしているのですか。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>進捗状況については、実績報告書を毎年作成し、議会等に報告し、じょうほうひろばやホームページで公表しています。見直しについては、6 年間の計画期間であることから、中間である平成 21 年 2 月に見直しをいたしました。</p>
木村委員	<p>民間企業だと昔は、提案制度とっていましたが、豊橋市では業務改善運動として、発表会を開催されているようですが、ノルマがあるのでしょうか。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>システムとして、行政評価という仕組みがあり、サービス改善について評価を行い、翌年度の改善に活かすという取り組みを行っています。</p> <p>あわせて、業務改善運動は、各職場での優れた改善を他課にも広めるため、全庁的に展開したもので、ノルマではなく募集をして成果発表しています。</p>
木村委員	<p>市長の挨拶の中で、職員が給料に見合った仕事するという言葉がありましたが、逆に業務の改革・改善の効果に対して評価も含めた給料を決めて欲しいと感じました。</p>
大久保委員	<p>平成 17 年から平成 22 年度の現行プランについてですが、途中で市長が交代していますが、新しい市長になって全く新しいものに変更したのでしょうか。</p> <p>また、10 年ほど前に今回の懇談会に類似した会議に関係していましたが、平成 9 年に当時の行財政改革懇談会が行政改革の提言をしているが、その提言に対して、市としてどのような進捗の自覚をもっておられるのかお伺いしたい。</p>
事務局 (行政課長)	<p>まず、市長の交代に関するプランの見直しについてですが、市長の交代時期が、平成 20 年 11 月であり、現行プランの見直しを行った平成 21 年 2 月より前であることから、現佐原市長のムダのない市役所づくりという思いも含め改訂版を作成しました。改訂版は、行</p>

発言者	要 旨
事務局 (行政課長)	政改革の取組み内容について大きな方針変更はありませんが、景気後退や金融情勢の悪化の時期でもあったことから、もっと踏み込んでしっかり改革を行うという意識で策定いたしました。
事務局 (行政課主幹)	<p>平成 8 年度以降の経過についてですが、市民懇談会の中で提言をいただき、行政改革大綱を作成しました。この大綱は行政改革の方向性を示すもので、その根幹は今でも生きていと認識しています。</p> <p>大綱の中に、市民サービスの充実と事務事業の見直しといった項目がありますが、事務事業の見直しはどの時代にあっても必要なもので、常に継続した取り組みをしています。</p> <p>市民サービスの充実は、新たな行政需要への対応として、時代に応じて求められる改革項目とするよう提言の時から少しずつ変化させています。</p>
大久保委員	<p>大綱のはじめに、小さな市政府を目指せ・行政組織のスリム化と柔軟化を一番初めに挙げている。豊橋市は、人員削減などはまじめに取り組んでいて、成果もあると感じています。</p> <p>財政状況も同規模他市と比べると、悪くないと思いますがあくまでも他市との比較であり、豊橋市の現状が本当に適正かどうか公認会計士の委員もお見えですので後でお伺いしたいです。</p> <p>ただ、10年前から市の財政状況はあまり良くないと感じています。平成 9 年の大綱の中で行政組織のスリム化を目指すと言っているのに、3%や 4%の人員削減では、まるで進んでいないように感じる部分もあります。市長や副市長にこの点についてどうお考えなのかお伺いしたいと思っておりましたが、ご退席されましたので残念に感じています。</p>
佐藤会長	<p>本日は、市長も副市長もご予定があることを伺っていただきましたので、今後、先ほどの大久保委員ご意見について、なんらかの回答がいただければよいと思います。</p> <p>平成 17 年度から平成 22 年度までの現行プランについて、一度よく読んでみたいと思いますが、事務局から少し説明してください。</p>
事務局 (行政課長)	<p>それでは、現行の経営改革プランについて少しご説明します。 《豊橋市経営改革プラン改訂版の概要説明》</p>
佐藤会長	先ほどの説明も含めて、何かご意見がございますでしょうか。

発言者	要 旨
鈴木委員	豊橋市の財政状況についての質問ですが、投資的経費と公債費の用語説明と具体的にどのような使い道なのか教えてください。
財政課長	《投資的経費と公債費について説明》
大久保委員	市長のご挨拶で、「生産力を高めたい」と言われていましたが、現行プランの改訂版には、生産性を高めるような項目が見当たりませんが、現市長のお考えが本当に反映されているのでしょうか。
総務部長	<p>現行の経営改革プランは、平成 16 年に作成され、平成 17 年度から平成 22 年度までの計画期間となっています。</p> <p>市長の挨拶の中では、これから皆様と一緒に作成していく新たな行財政改革プランに対し、豊橋市の実産力を高めていくことができるような計画を盛り込みたいという意味とご理解ください。</p>
石原副会長	<p>総務部長のご発言に補足いたしますが、現行プランの中にも生産力を高める項目があると思います。例えば、現行プランの目次にある行政評価の推進、政策調整機能の充実、庁内分権化の推進、人づくりの推進、政策推進に向けた組織改革及び業務改善運動の推進については、全て生産力の向上に繋がるものです。</p> <p>政策があって、その政策を下支えするのが行財政改革プランです。</p> <p>行財政改革ですので、メインは市役所ですが、昔のようになんでも役所がやる時代ではないので、税金を使わないように民間委託していけば、生産力は高まるし、職員数は減っていく、そのような観点で見れば、先ほど述べた項目は全て生産力を高めることが可能な項目だと思います。</p>
木村委員	私は、市民も公務員も含めて一人ひとりの力を大きくしていくことが、生産力の向上になると、市長の言葉を受け止めました。
佐藤会長	いろいろなご意見がございますが、今後新たな行財政改革プランを策定するうえで、豊橋市の現状を理解するのが今日の趣旨ですので、そのような視点でのご意見は他にないでしょうか。
鈴木委員	安全安心のまちづくりのために消防職や医療職を増員することは、非常に大切なことであると感じていますが、例えば消防職が休んだ時に、特に女性の消防士が 5 名くらい配置されていると思いますが、その職員が出産や育児などで長期お休みの時の補充は行われているのでしょうか。

発言者	要 旨
人事課主幹	代替職員としてすぐに消防の専門職員を雇用することは困難なため、消防の事務的な業務を行っている部署の消防職を現場の代替職員に充て、その事務的な業務を補助するための補充を行っています。
佐藤会長	他に、ご意見ございませんでしょうか。
白井委員	農業についてですが、高齢化により休耕地が増えています。国の補助金もあるが、大きな農地を持っている農家にしか支給されないし、農作物の種類によっても補助の規制があり、豊橋の農家で補助金の適応を受けることができている農家は少ないと感じています。行政はもっと市民のことを考えた政策を行って欲しいと感じます。
佐藤会長	今のようなご発言をこれから作成する行財政改革プランにどう取り入れていくかを考えないといけないと思います。
総務部長	市の農業政策については、現在企画部で策定中の第5次総合計画の中で、今後10年間の方針を示していきたいと考えています。 その総合計画の政策・施策を実現可能なものにするために、財源確保や人員確保が必要になりますが、そのための行財政改革プランにしたいと考えています。
伊藤委員	豊橋港が重点港湾に選定されましたが、ベンツの撤退などのことでもありますし、総合計画の中に港湾活性の項目を是非取り入れてほしいです。 先ほど財政課のほうから市税収入額について説明がありましたが、豊橋市は法人市民税の割合が非常に低いので、豊橋市の経済がもっと活性化されるような計画にして欲しいと感じます。
諏訪委員	豊橋市は中核市の中でも優等生である。ただ、地方財政において全般的に見られることは、扶助費が上がっていることです。また、豊橋市の経常収支比率の89.0%は、他の地方自治体でも同様に悪化しており、中核市の中では良いほうである。だからといって、豊橋市は行財政改革をやらなくて良いかということそうではありません。 今後20年から30年間は高齢者の問題がどの市町村でも重要な課題として挙げられるなど、将来を見通した行財政改革の必要性を強く感じます。
財務部長	全国的な経済情勢の悪化に伴い、豊橋市もその影響を受けています。 国の経済政策に期待せざるを得ないが、豊橋市が独自に努力できること、例えば市税収入を増やすような地域活性の努力などは進めていかなければなりません。

発言者	要 旨
財務部長	<p>景気低迷で扶助費の中の生活保護費が増えているし、少子高齢化の問題もあり、どうしても投資的経費にお金を回すことができない状況もあるが、行財政改革プランの中でしっかり計画を立て投資的経費に回すための財源確保に努めたいと感じています。</p> <p>経常収支比率についてですが、現行プランの目標が85.0%であり、20年度実績が86.0%であったのに対して21年度実績で89.0%と悪化したが、これは市税収入が落ちた影響が大きいと考えています。</p> <p>これまでの行財政改革の努力により、人件費や物件費では一定の効果があがっていると感じています。ただ、それ以上に扶助費の増加傾向があるため努力がなかなか数値に反映されない状況にあります。</p>
世羅委員	<p>投資的経費に必要な財源が今後どれくらい必要かという議論ですが、豊橋市の道路などのインフラ整備がある程度進んでいて、今後大規模なインフラ整備の必要がなければ、財源はさほど必要なくなる訳ですが、インフラ整備の進捗状況を市はどのように考えているのかお伺いしたい。</p> <p>2つめに、基金残高についてどの程度が適当と考えているのか。</p> <p>3つめに、この10年間で、職員数は23名しか減っていないが、職員人件費は330億円減っている。この人員削減や人件費削減について事務局はどう評価しているのかお伺いします。</p>
財務部長	<p>インフラ整備の進捗状況についてですが、施設整備などは毎年違うので一概には言えませんが、中核市のインフラ整備の進捗状況を比較した場合、平均以上の整備はできていると思います。</p> <p>基金の残高についてですが、財政調整基金は、大規模な公共事業や市税減収の補填に充てたりする財政調整のために貯金していますが、大体100億円を目標にして確保に努めています。</p> <p>近年の基金残高の状況は、厳しい財政事情の中で右肩下がりになっていますが、第5次総合計画の中で、施策の見通しと併せて財政調整基金の一定確保ができるように検討しています。</p>
人事課長	<p>定員管理についてですが、平成11年度と平成22年度を比較して23名減員です。普通会計部門の職員数については174名の減員を行っていますが、トータル23名の減員に留まっている主な要因は、安全安心なまちづくりを担う市民病院において、7対1看護を目標に医療従事者の職員数を増やしているためであります。</p> <p>次に、職員人件費の330億円の削減についてですが、他市に先駆</p>

発言者	要 旨
人事課長	けて地域手当の引き下げを行ったことや給料表の改訂を行ったことによる効果であります。
大久保委員	定員管理や給与状況で何パーセント削減したとかの資料を頂くが、市民には分かりにくいので、勤続5年・10年・20年・30年・40年で一番上の役職の職員と一番下の役職の職員の実際の残業代を含んだ給与額と有給の消化状況、つまりどれだけ働いて、どれだけ給料をもらっているかを具体的に示していただきたい。次回用意していただければと思いますので、お願いします。
木村委員	業務改善や行政改革は、評価がとても大切で、新たな行財政改革プランでは改革にどのような効果があったのか、しっかり評価できるような仕組みを考えていきたいです。
佐藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の予定時刻も迫っておりますので、<u>議事の(6)次回開催日程</u>について決めたいと思います。</p> <p>事務局から候補日の提案をお願いします。</p>
事務局 (行政課長)	<p>今回は11月22日(月曜日)の午後3時30分からを候補としておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>今回の内容は、新たな行財政改革プランについてお示ししたいと思っています。</p>
佐藤会長	<p>いま事務局より11月22日(月曜日)の午後3時30分という案が出ましたが、いかがでしょうか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>それでは、11月22日(月曜日)の午後3時30分からということで、お願いします。</p> <p>次回につきましては、新たな行財政改革プランについて、事務局から説明していただき、意見交換や質疑応答を行いたいと思います。</p> <p>資料等につきましては、あらかじめ事務局から各委員へ送付していただくようお願いします。</p> <p>他に、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>事務局、何かありますでしょうか。</p>
事務局 (行政課長)	現在、平成23年度以降の行財政改革プランの策定を進めていますが、改革方針や事務事業の見直しについて、ここに見える4名の専門委員の方とともに部局のヒアリングを公開の場で行いたいと考

発言者	要 旨
事務局 (行政課長)	<p>えています。</p> <p>詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせします。</p> <p>次回の新たな行財政改革プランに関わる内容となりますので、お時間の許される方は、是非、足をお運びいただきたいと思います。</p>
佐藤会長	<p>他に、何かありますでしょうか。</p> <p>それでは、他にご発言がなければ、これで本日の懇談会を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>